

健康アドバイス



服部 謙志 医師
(吉備医師会から)

耳の中に水が入ると中耳炎になる、と思っている人がよくいます。確かに、鼓膜に穴がある人は中耳炎になります。しかし、ほとんどの中耳炎は、鼻や喉が原因です。耳は、鼻や喉と耳管という管でつながっています。細菌やウイルスが、この耳管を通して耳の中に入ると、中耳炎になります。特に乳幼児は耳管が短いため、よく中耳炎になって

今月のテーマ
中耳炎

知っていますか?中耳炎について

しまいます。
中耳炎には、急性中耳炎、しん滲出性中耳炎、慢性中耳炎があり、最も多いのが急性中耳炎です。風邪をひいたときに、耳の痛みや発熱を伴って起こります。通常は1週間程度で治りますが、最近では、治りにくい中耳炎が増えています。その原因は、抗生物質が効きにくい細菌の増加です。また、熱や耳の痛みがなくなったからといって、途中で治療をやめてしまうと、滲出性中耳炎や慢性中耳炎に変わってしまい、さらに治りにくくなる可能性があります。

滲出性中耳炎は、鼻の炎症などで耳管が詰まり、中耳に粘膜からしみ出た滲出液がたまったものです。痛みはなく難聴が続きます。また、慢性中耳炎は、急性中耳炎の反復などで、鼓膜に穴が開いたままになったものです。難聴や耳だれを繰り返します。

中耳炎は、治りにくく、何度も繰り返すことが多い疾患です。途中で治療を中止せず、治るまで根気よく治療を続ける必要があります。風邪をひいたときに耳に症状があれば、早めに耳鼻咽喉科を受診しましょう。

問い合わせ 健康医療課健康増進係 (☎92-8259)

安全・安心

総社署からのすすめ

年末年始は、忘年会・新年会などでお酒を飲む機会が多く、飲酒運転による交通事故が増加する時期です。また、気持ちの焦りから安全運転を怠ったり、スピードを出し過ぎたりすることも事故につながります。

次のことに気を付けて、事故のない明るい年末年始を過ごしましょう。

■飲酒運転は絶対禁止

忘年会などで飲酒した場合は、

飲酒運転の根絶と年末年始の交通事故防止

絶対に車を運転しないようにしましょう。

■ハンドルキーパーを決めましょう

飲酒会場へ車で行き帰りする場合は、事前にドライバーを決めておき、ドライバーにはお酒を飲ませないようにしましょう。

■自転車も車

自転車の飲酒運転も禁止されています。酒酔い運転には100万円以下の罰金が課せられます。

■安全確認を徹底しましょう

気持ちが焦ると安全確認がおろそかになります。しっかり安全確認をしましょう。

■速度は控えめにしましょう

スピードの出し過ぎは重大事故に直結します。ゆとりをもった運転で、速度を抑えましょう。

■早めのライト点灯を

夕方以降は交通事故が多発しやすい時間帯です。早めのライト点灯を心掛けましょう。

■ライトは上向きが基本

歩行者や自転車を早く発見し、交通事故を未然に防ぎましょう。対向車などとすれ違うときは、下向きに切り替えましょう。

■夜光反射材を着用しましょう

夜間、車からは歩行者、自転車が見えにくくなります。夜光反射材を着用して自分の存在をアピールしましょう。

監修・問い合わせ 総社警察署 (☎94-0110)

17地区での自由枠交付金の使い方などを紹介!!



地域で生きる自由枠交付金

Part 13

阿曾小学校区地域づくり協議会

●自由枠交付金制度の活用について

阿曾小学校区は、平成27年度から自由枠交付金制度がスタートしました。今年度は、各地域の特性に応じて、イベントや環境美化など工夫を凝らした事業を実施し、地域の活性化を図っています。

●今後の課題

交付金の額が決まっているため、新規で事業をすることは難しいです。また、自主防災組織の加入率が低いため、今後は、加入者数を増やして災害に備えた啓発活動も実施していかなければいけないと考えています。



10月22日に砂川公園で温羅まつりが開催され、備中神楽の演舞や大正琴、うらじゃのおどり、銭太鼓の発表などにぎわった

主な活動内容

事業名	活動内容
敬老会開催事業	敬老会の開催
環境美化事業	道水路環境浄化活動、ごみ集積所の修理など
地域安全安心まちづくり事業	青パトでのパトロール活動、防犯灯の設置、啓発看板の設置など
地域防災啓発事業	災害への備えに関するPR活動
まつり開催事業	温羅まつりの開催、阿曾地区ふれあい夏まつり事業など

阿曾小学校区地域づくり協議会会長

林 宣之さん

阿曾地区は、温羅やたたら製鉄で有名なところです。これらを資源に地区をPRしていきたいです。地域の祭を通じて、地区住民の交流を深め、自由枠交付金の使途や活動内容にも興味をもってもらいたいです。



総社小学校区 福島 登さん

総社小学校区には、50の町内会があるため、まとまった事業を行うことができません。しかし、限られた交付金で各町内会が地域活性化や防犯活動などに活用しています。これからは、約半数しか加入していない自主防災組織の加入者数を増やしていくことが課題です。



総社中央小学校区 白神 増己さん

総社中央小学校区は、今年度から部会制に移行し、「こども部会」と「防犯防災部会」を新設。子どもと高齢者の安全・安心のために防犯灯を重点的に設置しました。また、これまで交流のなかった地域の人も交流が図れたことで、地域の課題も共有できています。

11月15日、総社市自由枠交付金地域づくり協議会連合会が総合福祉センターで開催されました。市内17地区のうち、総社小学校区、総社中央小学校区、常盤小学校区の代表者が、自由枠交付金を使い取り組んでいる事例や今後の課題などを発表しました。



常盤小学校区 来見田 芳男さん

常盤小学校区は、8支会と環境・福祉の2部会で構成されています。交付金は、敬老会や環境浄化活動、防犯灯の維持管理、公会堂の電気・上下水道代などに使用しています。自主防災組織の加入率は61%とまだまだ低いので、今後高めていきたいと思っています。

各地区の活動事例を報告

自由枠交付金地域づくり協議会連合会